

第24回定時総会・第1回情報交流サロン会開かれる

第24回定時総会が、平成28年6月19日(日)午後2時30分より、本学学術交流会館多目的ホールで開催された。多くの同窓生の方々に出席していただき、約20名の出席者であった。

まず、藤田勝久会長より開会の挨拶があった。その後、下記の議題の審議に入った。

1. 役員交代の承認と紹介

理事の新任・退任・交代に関する15件の報告があり、承認された。

2. 2014年度、2015年度事業報告

過去2年間の事業について事業報告があり、承認された。

3. 2014年度、2015年度会計報告および会計監査報告

過去2年間の会計処理に関する報告並びに監査報告があり、承認された。

4. 2016年度、2017年度事業計画

これからの2年間の活動計画につき提案があり、承認された。

第1回情報交流サロン会が午後3時30分より、同会場にて開催された。

題目:「温室効果ガス低減/地球環境負荷低減に対する一
提言

一産業機械の性能見直と、その可能性について」

講演者:(工機18-S45)西川嘉康氏

その後、恒例の懇親会が学術交流会館ロビーで盛大に開催された。同窓会総会・情報交流サロン会・懇親会にご出席いただいた同窓生の方々に、深く感謝申し上げます。

専務理事 大多尾義弘、菊田久雄



第2回情報交流サロン会、府大・I サイトで開催される

機械工学科同窓会は、隔年で総会、毎年で理事会を開催し、同窓会の運営などについて話し合っていると同時に、懇親会により同窓生の交流を地道に深めてきています。しかし、最近の急激な情報化社会の進展に鑑み、同窓生の交流を一層深めるため、昨年から情報交流サロン会を立ち上げました。同窓生より戴いた多様な話題を橋渡しとして交流を深め、先輩・後輩が卒業期を越えてつきあえることを期待されています。

既に1回目が開催済みですが、第2回が府大・I サイト(地下鉄・大国町下車すぐ)で、赤井幹事と西海副幹事の世役で開催されました。

1.日時:2016年11月19日(土)13:30~18:00

2.話題提供:

- 「ニッチな市場でのグローバルNo.1 企業をめざして」:

工機8-S35、今村啓志氏(カンケンテクノ(株))

- 「一卒業生の軌跡」:工機39-H3、蒲生恵司氏

(ダイキン(株))

20名の出席があり、1番目の話題提供は、創業の成功体験と苦労話および今後の世界へのチャレンジ戦略に関するお話、2番目の話題提供はエネルギー関連企業のなかで目まぐるしい開発に取り組む中堅技術者の活躍と今後の展開などのお話で、同窓生にとって興味深いものでありました。活発な質疑・討論の後、懇親会では缶ビールでワイワイ・ガヤガヤといろいろな話題について、卒業期を越えて情報交流を深め、散会しました。

(記藤田)



先輩・後輩の交流を深め、 母校の発展にご支援を!

会長 藤田 勝久(工機12期)



陽春の候、皆様方におかれましてはご健勝にお過ごしのこととご拝察申し上げます。機械工学科同窓会は、本年もまた優秀な新会員をお迎えすることが出来ることを、心からお慶び申し上げます。

この1年間を振り返りますと、ノーベル賞の受賞者として、医学・生理学賞に大隅良典氏が選ばれ、日本中が沸きました。ここ数年の連続の受賞は、日本の学術レベルの高さが評価されたものとして励みとなるものであります。さて、世界は益々グローバル化が進み、多様な変革が進展してまいってきています。昨年は英国が欧州連合(EU)を離脱し、また米国では、「再び偉大な米国を目指す」としてトランプ大統領が選出されました。世界の均衡の構図は新たな局面に入ってきたと考えられます。世界はどこに突き進んで行くのか不透明・不確実の時代になってきています。日本は第2次世界大戦敗戦後、急速な復興をとげ、世界の一流国に歩を進めてまいりました。しかし、世界情勢は、テロ事件の頻発、中東諸国の政情不安定と難民問題など複雑化し、さらに日本を取り巻く東南アジアでの軋轢・葛藤など、片時も気の抜けない状況になってきたように思われます。

数年前から大阪府立大学系の再編が行われ、本学を中心として大阪女子大学、大阪府立看護大学等との大合同が実施され、やっと現在落ち着きを取り戻してまいったようです。一昔前の男性ばかりが多くて飾り気のないキャンパスも若い女性の華やかな声が満ちる明るい雰囲気になってまいりました。さらに、大阪府、市の副首都化推進運動等、そして全

国的な大学の再編・統合の動きなどの影響も受け、大阪府立大学と大阪市立大学との統合の動きが現実味を帯びてきております。統合のビジョン、統合の効果、そして統合の手順なども明確化されつつあるようです。同窓会を取り巻く環境も変化してくるものと推測されます。

交友会なる組織で数年前から「ホームカミングデー」などが本学で開催され、活性化が高まってきているように感じられます。校友会に単位同窓会として参画しています機械工学科同窓会は、総会および理事会を開催し、同窓会の運営などについて話合っていると同時に、懇親会により会員相互の交流を地道に深めてきています。また、会報に報告していますように、本同窓会から支援している学生の研究論文の海外発表も、国がランク付けする研究型大学群への本学の位置づけに向けて貢献しつつあります。さらに、最近の急激な情報化社会の進展に鑑み、同窓生の交流を一層深めるため、情報交流サロン会を立ち上げ、既に2回目が開催済みです。先輩・後輩が卒業期を越えてつきあえることが出来ればと期待されています。

それでは、皆様のご参加と忌憚のないご助言、ご支援により機械工学科同窓会をさらに育てていただくことをお願い申し上げますと共に、皆様のご活躍とご健勝をお祈りしてごあいさつに代えさせて戴きます。



第3回情報交流サロンの案内

第1回、第2回で好評を頂きました情報交流サロンを下記の要領で開催します。また、情報交流サロンの後には簡単な懇親会も予定しています。ここ数年で学内建物の改装もすみ、綺麗になった中百舌鳥キャンパスの見学がてらに、ご参加いただければ幸いです。なお、当日は13時より理事会が予定されています。理事の方は、あわせてご出席のほど、お願い申し上げます。

日 時:2017年6月17日(土)14:30~15:30、

懇親会は15:30~16:30

場 所:大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
学術交流会館特別会議室

講演題目:「機械工学を支える光技術」

菊田久雄氏(工機30-S57)

参加費等:情報交流サロン会は無料。懇親会は実費3,000円を頂戴します。懇親会の参加費用は、同封の振替用紙にて5月31日までに振込み頂くか、当日懇親会場でお支払いください。

追伸:第4回情報交流サロン会は、2017年11月18日(土)(予備日:2017年12月2日(土))、場所は大阪府立大学I-siteなんば、として企画中です。

平成28年度の動向

平成28年の学長の年頭の所感におけるキーワードは、「世界に翔く地域の信頼拠点」、「垣根のない大学でつながりを」、そして「グローバル化」でした。機械工学分野の平成28年度は、まさに「グローバル化」の実現のために、国際交流に奔走した一年でした。一昨年来準備を進めてきた中国福建省の福州大学との交流が実行に移される年だったからです。本交流の柱は、学士課程のダブルディグリー(DD)プログラムです。平成29年4月より、機械工学課程は、福州大学からの留学生を3年次に編入させ、本学の学士の学位を修得させることになります。そのため、本年9月2日に、福州大学に3人の教員が赴き、現地と府大との間でe-mailや国際電話でやり取りしながら、工学域3年次外国人留学生特別編入学試験を実施しました。このDDプログラムの実行に際する問題点の一つは、本学と福州大学との授業カリキュラムの相違でした。その相違を埋めるため、9月の試験に先立ち4月には、3人の教員が現地で出張講義を行いました。出張講義は今後も継続されます。もう一つの懸案事項は、外国人編入生の日本語能力です。工学域の講義が日本語で開講されている現状を鑑みると、外国人編入生を受け入れるにあたり、日本語能力の担保と来日後に手厚いケアが重要になってくると考えています。

福州大学との交流は、DDプログラムに留まらず、他に二つの大きなイベントが本年度開催されました。一つ目は、JSPSの「さくらサイエンスプラン」の採択に伴う、本学と福州大学の教員および学生との交流です。本交流では、11月12日~19日の間、菊田教授のご

機械系専攻機械工学分野
平成28年度主任 教授

高比良 裕之

尽力のもと、福州大学の3人の教員と6人の大学院生を招待し、学内外の見学会、ジョイントポスターセッションや懇親会などを実施し、交流は成功裏に終了しました。二つ目は、福州大学、国立台湾海洋大学および本学の3大学で共同開催した”Joint Symposium on Advanced Mechanical Science & Technology for Industrial Revolution 4.0”です。福州大学にて12月1日、2日に開催された本シンポジウムには、本学から6人の教員が赴き交流を深めてきました。次のシンポジウムは、二年後に本学で開催予定です。

国際化の波は、教員人事にも及んでいます。本年度、機械工学分野では初めてテニユアトラック助教の国際公募を行いました。国際公募による、国際的に通用する人材の採用は大学にとって不可欠な状況なのです。

大阪府立大学と大阪市立大学の統合については、本年9月21日に「新大学について(検討経過の報告)」説明会が開催されました。大阪府と大阪市で設置する副首都推進本部の下に、「新大学設計4者タスクフォース」が発足し、統合に際し、①都市シンクタンク機能 A) パブリックヘルス/スマートエイジング、B) スマートシティ; ②技術インキュベーション機能 C) バイオエンジニアリング/創薬、D) データマネジメントの4つのビジョンが掲げられました。説明会では、これらのビジョンに関する説明があり、統合に向けた準備が粛々と進められています。最後になりますが、今後とも同窓会の皆様より機械工学課程・機械工学分野へのご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

就職・進学等の進路状況について

機械工学分野就職担当 教授 伊藤 智博

平成28年度は、2回目の学域生卒業の年となりました。今年度は、表1のように課程学生・学部生の81%が大学院に進学し、8名の学生が企業への就職が内定しました。また博士前期課程の大学院生については、53名が企業への就職を内定しました。

経団連に加盟している企業の今年度の採用・就職活動のスケジュールは、昨年度の混乱や課題を踏まえて再度変更となりました。企業求人の広報活動開始は昨年同様3月開始でしたが、採用選考活動の開始は6月からとなり昨年より2か月早まりました。(なお、一昨年度は、12月企業広報活動開始、4月から採用選考活動開始でした。)従いまして、学生に取りましては企業の広報活動開始から採用選考活動開始までの期間が短く、就職希望先を考える時間的余裕が少なかった、との意見がありました。また、多くの企業において昨年同様、マッチング、インターンシップ等の名目で、3月早々から事前選考が行われ、6月以降の採用選考は形式的なものとなりました。上記のように、

今年度は短期間での就職活動となり、苦慮した学生も多かったと見受けられます。

内定率について見ますと、学校推薦を受けた学生の内定率が必ずしも良いとは限りませんでした。それを反映して、本年度の自由応募での内定率は約28%で、昨年度の約20%より増えています。就職指導においては、学校推薦のルールや企業との信頼関係を尊重しつつ対応したつもりですが、結果的に企業側はクールだったと言えます。

表3のように、学生の就職先は例年と大きな差はなかったと思われますが、やはり、早めに希望先を絞り込んでアクティブに活動するほうが有利であったという印象を持っております。来年度就職活動する方の参考にしていただければと思います。

最後になりましたが、就職業務にご協力いただきました機械事務の皆様方はじめ関係の方々には、大変お世話になりました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

表1.平成28年度卒業予定者・修了予定者の進路とりまとめ(平成29年3月現在)

●学部学生

	在籍者	卒業 予定者	就 職			進 学			その他	未 定
			企業	公務員・教員	計	本学	他大学	計		
機械工学課程	68	67	6	1	7	52	6	58	3	0
機械工学科	3	1	1	0	1	0	0	0	2	0
合 計	71	68	7	1	8	52	6	58	5	0

●大学院学生(博士前期課程)

	在籍者	修了 予定者	就 職			進学	研究生	その他	未 定
			企業	公務員・教員	計				
機械工学分野	61	54	53	0	53	1	0	7	0

表2.平成28年度卒業予定者・修了予定者(平成29年3月現在)

I. 卒業予定者〔機械工学課程〕

朝比奈修也	五十嵐賢哉	池谷 亮介	岩崎 稜太	上田 将司	植西 宣仁	王 媛媛	大島 和起
大瀧 悠裕	大辻 佳孝	岡崎 友紀	岡崎竜之介	沖山 大晃	蔭山 匡平	加藤 裕樹	門脇 智哉
上澤上美里	亀井 啓史	河田 将志	木原 彬	金 智姫	桑木 雅史	齋藤 僚太	杉本 真
杉本 真隆	鈴木 康平	高橋 侑愛	高松 優行	武埴浩太郎	田中 勝也	田中 大喜	田中 大基
田中 耀喬	徳永 輝	中田耕太郎	西岡 拓哉	西田 大	西山 悠大	任 国鵬	馬場進之介
日野 宗壮	平田 雄也	平野晋太郎	廣田 健之	藤木 謙太	藤原 宏彰	堀場 大生	前田 光毅
的野 光華	御沖佳一郎	水野 日向	三谷 俊貴	宮城 勇作	三輪 晃生	村松 直樹	森下 侑亮
山崎 貴浩	大和 史明	山本健太郎	吉田 拓	郎 鵬飛	楠田 伸	灰塚 興	岩本 康一
竹山 吉洸	塚本 博希	西村 凌					

〔機械工学科〕

仲井 康二

II. 博士前期課程修了予定者〔機械系専攻機械工学分野〕

新 慎之介	安西 雄祐	稲田 翔太	井上 雄貴	今村 優亮	植阪 弘和	岡部 凌平	岡本 晃和
小笠原啓太	小川 貴史	小田宗治郎	小野 洋祐	勝丸 貴之	北岡 竜太	北野 裕之	木下 拓真
黒木 亮介	小林 祐樹	齋藤 浩一	佐藤 慶英	沢村 俊明	紫垣 佑介	正川 浩貴	菅野 翼
杉森 映太	竹松 良	田中 雅典	谷 和樹	近末 竜	寺岡 亮祐	富樫 優大	徳倉 昇久
中塚 佳希	中村 郁也	野々宮偉之	橋本謙一郎	橋本 昌顕	原田 和真	平野 智也	福井 敦英
藤田 大地	藤田 真人	藤本 陽	船見 達洋	許 雄大	前川 純一	松井 良介	南野 顕吾
三谷澤大翔	宮田 輝丸	森谷倫太郎	吉田 拓磨	米杉 政則	長野 将吾		

III. 博士後期課程修了予定者〔機械系専攻機械工学分野〕

Pham Quoc Thai	2017/3/31博士(工学)の学位取得予定
山野 彰夫	2017/3/31博士(工学)の学位取得予定
山本 柱	2017/3/31博士(工学)の学位取得予定
加賀田 翔	2016/9/25博士(工学)の学位取得

表3.平成28年度卒業予定者・修了予定者進路(平成29年3月現在)

●内定先

(株)IH	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	(株)インダ	いすゞ自動車(株)	(株)イトーキ	オークマ(株)
大阪ガス(株)	川崎重工業(株)	近鉄グループHD(株)	(株)クボタ	KYB(株)	(株)神戸製鋼所
コニカミノルタ(株)	(株)サイバーエージェント	(株)ジェイテクト	(株)シマノ	住友重機械工業(株)	全日本空輸(株)
ダイハツ工業(株)	ダイハツディーゼル(株)	(株)デンソー	(株)電通	東京ガス(株)	TOTO(株)
凸版印刷(株)	トヨタ自動車(株)	(株)トラステック	西日本旅客鉄道(株)	日東電工(株)	日本高圧電気(株)
日本電産(株)	パナソニック(株)	(株)日立製作所	日立造船(株)	(株)ブリリアントサービス	古河機械金属(株)
(株)マキタ	松下精機(株)	マツダ(株)	三井造船(株)	三菱重工業(株)	三菱電機(株)
(株)モンベル	滋賀県庁				

●進学先

本学大学院	京都大学	九州大学	神戸大学	東京工業大学	東北大学
-------	------	------	------	--------	------

卒業する皆さんへ(40年間の反省から)

「少年老いやすく学成り難し」とはよく言ったものだ、とつくづく思っています。企業で25年、本学で15年、合わせて40年間の社会人としての人生を振り返り、自分は何を成し遂げたか、何か他の人に誇れるものはあるのかと考えたとき、愕然とします。今考えると、いかに努力が足りなかったか、もう少し深い検討をしておけばもっと良い成果が得られたのではなかったか、と反省することが多々あります。逆に、人より多めに苦勞して得た成果は、外部に対して誇れる成果になっていると思います。

現在の社会では、日々の生活は非常に多忙で、のんびり事を進めることが難しくなっています。しかし、その中でも、ほんの少しだけ踏ん張って、深く物事を追及することで他人に誇れる成果を得ることができないかと思えます。また、語学のように一朝一夕では修得できない能力もありますが、そのような時、わずかな通勤時間を利用して勉強するなど、ほんの少しの努力をルーチンワーク的に積み上げていくことで大きな成果を得ることができます。日常生活はともすれば安易な方向に流れてしまいます。人生は長いようですが、意外と短いことが年齢を重ねるにしたがって分かってきます。「一寸の光陰軽んずべからず」と言うのが最初のことわざの続きですが、日々の生活でいかに有意な時間を増やすかの工夫と実行が重要と思えます。

今、世の中は、地球温暖化による異常気象の頻発、英国や米国に見られる保護主義的な考え方の増大による予想外の政治状況、さらに近隣諸国との緊迫した外交関係など、不安定な状況にあると言え

ます。このような不透明な世の中においては、自分の進むべき方向はどうあるべきか、目先の利益にとらわれない大きな指針を自分なりに持っておく必要があると思います。その際、自分のことだけでなく、会社、地域、日本、あるいは世界のためにはどうあるべきかの視点も重要です。その大きな目標に基づいて、1か月先、1年先などの短期的な目標を立てて進めばよいと思います。私は3月末で退官しますが、これから始まる第3の人生に対し第3の目標を立て、それに向かって進んで行こうと思っています。これから卒業していく皆さんあるいは在校生の皆さんが、日々の時間を大切に、小事にとらわれない大きな目標を立て、世の中の役に立つ人材になってくれることを祈ってやみません。

最後に、これまでに非常に多くの方々のご指導、ご鞭撻、ご支援をいただきましたことに対し、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

平成29年3月 伊藤智博



事務局日誌 (平成28年3月24日以降)

年 月 日	事 項
平成28年 6月19日	大阪府立大学校友会理事会・評議員会 機械工学科同窓会理事会 機械工学科同窓会総会 第1回情報交流サロン会
平成28年 11月6日	第7回大阪府立大学ホームカミングデー

年 月 日	事 項
平成28年 11月19日	第2回情報交流サロン会
平成29年 3月 5日	工学部同窓会理事会 大阪府立大学校友会理事会・評議員会
平成29年 3月24日	機械工学科同窓会新入会員歓迎パーティ (学位記授与式、会報37号発行)

機械工学科同窓会 2016年度理事会

平成28年6月19日(日)の13:00より、大阪府立大学学術交流会館特別会議室で2016年度理事会を開催した。出席者は18名、委任状提出が18名であった。開会に当たり、藤田勝久会長より挨拶があり、会員・理事の日頃の同窓会への協力に対する感謝の意が述べられた。その後、下記の議題の審議に入った。

報告事項

1. 会報第36号発行について
会報担当理事より資料に基づき報告があった。
印刷部数4,400部、郵便送付部数3,800部。
2. 新入会員歓迎パーティー開催、学業優秀賞の副賞贈呈(2016.3.24)について
専務理事より資料に基づき、大学院学業優秀賞2名、自動車技術界大学院研究奨励賞1名への副賞贈呈があったことが報告された。
3. 大阪府立大学工学部同窓会理事会、大阪府立大学校友会理事会報告について
専務理事より資料に基づき説明。平成27年度第2回の校友会評議員会報告があった。大阪府立大学工学部同窓会では、2016年度事業計画を報告。
4. 学生の研究発表会出席への費用補助について
会計担当理事より資料に基づき、平成27年度の旅費補助(5件)の報告があった。
5. ロボコンクラブ活動報告について
会計担当理事より資料に基づき、平成27年度の活動報告・会計報告、平成28年度の活動計画について報告がなされた。同時に平成28年度の活動に対して援助が承認された。
6. その他
専務理事より平成28年6月19日(日)AMに開催された平成28年度第1回の校友会評議員会において、本年度のホームカミングデーが11月6日(日)12:00-14:00に食事会のみで開催される旨の報告がなされた。

協議事項

1. 平成27年度決算報告・監査報告について
会計担当理事から決算報告がなされ、会計監査報告により、平成27年度会計決算が承認された。
2. 理事の交替・新任について
事務局から藤田勝久氏を引き続き次期会長に推薦する提案があり、承認された。会長の藤田勝久氏から挨拶があった。専務理事より理事の新任・退任・交代について提案があり、承認された。
3. 退任理事への感謝状・記念品の贈呈について
退任の会計担当理事に対して感謝状並びに記念品の贈呈を行った。
4. 平成28、29年度事業計画について
専務理事より資料に基づき説明がなされ、承認された。
5. 第2回情報交流サロン会について
会長より資料に基づき説明がなされ、承認された。
6. 財務状況の推移について
会長および専務理事より資料に基づき説明がなされ、今後の方針について議論がなされた。継続審議とすることになった。

理事会終了後、懇親会が開催された。

※機械工学科同窓会 2017年度理事会は、
2017年6月17日(土)に開催されます。

専務理事 大多尾義弘、菊田久雄

新入会員歓迎パーティーと 成績優秀者表彰

平成28年3月24日(火)の午後に、工学部・工学研究科の平成27年度学位記授与式が行われ、引き続き午後4時00分より、恒例の機械工学科同窓会新入会員歓迎パーティーが、B4棟で開催された。

同窓会からは、藤田勝久会長(工機12-S39)、太田廣理事(工機8-S35)、伊東弘一理事(工機13-S40)、杉元民夫理事(工機19-S46)にご出席を賜り、専務理事菊田久雄教授の司会進行のもとで、藤田勝久会長挨拶の後、専務理事大多尾義弘教授の乾杯の発声を

皮切りに、盛況の内に歓迎パーティーが開催された。最後に、太田廣理事と杉元民夫理事からご挨拶をいただいた。

また、パーティーに先立って、平成27年度の学部・大学院成績優秀者の表彰および副賞の記念品贈呈が、谷水義隆准教授の司会により執り行われた。機械工学科同窓会からは、大学院学業優秀賞受賞者2名と、自動車技術会大学院研究奨励賞受賞者1名に副賞の記念品を贈呈した。

受賞者は以下のとおりであり、受賞された諸君の日頃の精進と努力をたたえる。

- 日本機械学会三浦賞(大学院)
機械工学分野: 関 大輝君
- 大学院学業優秀賞(副賞:工学部同窓会並びに機械工学科同窓会)
機械工学分野: 吉村 親樹君、高濱 亮君、櫻井 英樹君、森田 悠介君
- 自動車技術会大学院研究奨励賞(副賞:機械工学科同窓会)
機械工学分野: 吉村 親樹君
- 白鷺賞(学部)
機械工学課程: 谷口 文彦君
- 日本機械学会畠山賞(学部)
機械工学課程: 片岡 夏美君



40歳を迎えた平成元年にスクールに通い始めて資格を取って以来、飽きることなく、数度の怪我にも負けず続けています。

器材一式80万円弱と、ハーレーに乗るとか、キャンプカーや、高級内外車を求めるより安価で、又、勝ち負けが無い、年金生活者の財布に優しく、飛ぶためにさしたる体力・筋力も不要のアウトドアスポーツ、私的にはアウトドアレジャーです。

管理職定年少し前の欧州出張の際スイスに立ち寄った経験を生かして、「スイスパラグライダーツアー」に出掛けるようになりました。

個人で格安航空券、ホステル、部屋賃を手配、炊飯器を持ち込んでの米飯自炊で25万円程度と日数の割に格安海外旅行を自負しています。

ユングフラウやアイガーの町グリンデルワルト、マッターホルンの町ツェルマット、モンブラン(仏)の町シャモニーを加え、「サンデー毎日」となっているからは現地10泊前後に伸ばして毎年出掛けています。

練習密度にもよりますが、スクールに通って1年前後で社団法人の発行する「パイロット証」を取得することにより、どこのフライトエリアでも自由に飛べるようになります。

相乗りでテイクオフまで車で上がって後から別の車で先の車を回収するのが一般的です。

数m/sの向かい風があれば数歩で「鳥人間」になります。

下から見てみると「気持ちよさそう、のんびり」と見えますが、風次第で、機体を安定させる操作に忙しくしている時もあります。

なんせ、「上昇気流」という乱気流に乗る事を目指し飛んでいる訳ですので。

突然の気流の大きな乱れで機体の翼端が折れる場合もあります。

ヨーロッパから日本にパラグライダーが入ってきたのが昭和60年頃で20数年経た今日では機体の設計技術の向上により安全性が飛躍的に向上し、安全重視のタイプから競技用まで多様な選択が可能になっています。

先述の「折れ」が発生しても、何の操作をしなくても回復するクラスが主流です。

「60の手習い」でもOKです。

皆さんも「鳥」になってみませんか？

追記:雲母(キララ)峰からのランディング横の借地に、フライト後の憩いの場になればと思い「志雲館」と名付けた山小屋を7年前に作りました。

夜の「アルコールフライト」に最適です(笑)

千客万来、来るもの拒まずです。



もう一つの鳥人間

パラグライダーに魅せられて

昭和46年 機械工学科卒 杉元 民夫

ギア クラス会 短信

平成28年度(第72回)工士会

本年度の恒例、工士会は昨年度と同様、下記の通り行われた。

日時:平成28年10月31日(木) 12時30分～16時

場所:新阪急ホテル2F「雪の間」

出席者:6名

会員各位の齢が高じるにつれ物故者・老衰者が増える中、出席者が激減しましたが、例年通り12時半から集合写真撮影、引き続き会員の近況報告、この1年間の物故者の状況報告、全物故者への黙祷を行った。この後懇親会に移り、各位が順番に近況談話を行い、その後、毎度の事ながら、諸兄の寮や学徒勤労動員先での思い出話や、寄る年波に抗せず体調不良や病気の話も多く出て、和やかなムードの中、大いに盛り上がり最後には恒例の「寮歌、逍遙歌、原動応援歌、至誠寮記念祭歌」を少人数ながら全員声張り上げ合唱、青春に返った感動を覚え、名残を惜しみつつお開きとなった。

(1月4日西村・記)

平成28年度物故者情報

山辻保男氏 平成27年8月没
松尾俊雄氏 平成27年12月没
河野悠氏 平成28年1月没
露峰良夫氏 平成28年2月没
木田明氏 平成28年4月没
鬼頭俊一氏 平成28年4月没
大路常次氏 平成28年9月没



(前列向って左から)藤井博、森本敬児、池田正三、道浦忠輝、
(後列向って左から)西村壽光、松田政義、

追記

本工士会も各位の協力で、72回の長き歴史を数えしました。昭和20年、あの終戦の混沌とした世情の中、卒業を迎え実社会への第一歩を踏み出した我々、工士会と名付けられた第1回の会合が忘れもせぬ昭和20年11月、箕面「琴の家」でサツマイモをかじりながら行われました。それから70有余年絶えることなく続いて72回の大記録となりました。会員の齢も90有余才、年々物故者や故障者が増え現状に至ったわけですが、この辺が幕を下ろす潮時かと思ひ今回出席の諸兄に語り、後ろ髪をひかれながら終えることになりました。この紙面を借りて報告致します。有難うございました。

工機3期クラス会(昭和30年)

第25回クラス会を平成28年3月7日～8日に、鳥羽にて開催した。参加者は10名です。例年5月に実施してきたが、伊勢志摩サミット開催で、3月にやっと希望のホテルが確保できた。ホテルは鳥羽安楽島の高台で、絶好のロケーションにある、アルティア鳥羽は地中海のリゾートホテル風で、今までとは違った雰囲気の中で、会は進められた。懇親会の

席上で、毎年参加者が減少しているので、クラス会の存続について、時間をかけ議論した結果、現状考慮し一応解散することにした。振り返れば、幸せな出会いであった。

そして楽しいメモリーを多く与えてくれた。無事25回の開催出来たのもクラスメートの協力のお蔭です。多謝。

(名古屋地区 谷本記)

傘寿を迎えたクラス会

工機7期

平成28年5月13日(金)天王寺都ホテルにて、機械工学科7期生の傘寿を迎えたクラス会を開催しました。傘寿という事で全員に連絡したところ、遠方の沼津市、加西市からも出席頂き、総勢14名のクラス会が出来ました……この57年の間にはいろいろの事がありましたが、その中でも誠に

残念な事は19名の方が亡くなられた事であり、亡くなられた方々の冥福をお祈りし、全員で黙祷を行ってからクラス会を始めました。

会長の挨拶、乾杯の音頭の後、美味しい食事をしながら、談笑へと移行し絶えることのない笑い声が聞こえました。

出席者の中にはブログ「里山日記」を継続されておられる方、表装作業をされている方、学生時代からの弓道が続けられている方、寺の住職になられた方、いまだに現役で中国通いをされている方等々おられます。

楽しそうに談笑している友の顔をみていると学生時代に戻った様な気がしました。寮歌を声高らかに合唱し、締め挨拶で閉会となり、3時間があっという間に過ぎていました。

次の会は3年後が約束されました。(3年後は卒業60年の節目に当たります)

次の会は出来るだけ多くの方々に参加を頂きたいと思っております。宜しくお願い致します……。 (橘 記)



(後列左より) 柏原、中西、芳賀、所、福永、萩原、浅井、
(前列左より) 大谷、緒形、山田、橋、森、愛洲、小室

工機8期の同期親睦会

2016年11月19日難波I-siteの情報交流サロン会で今村啓志君が「ニッチな市場でのグローバルNO.1企業を目指して」と題する講演を機会に、スイスホテル「エンブレム」で伊藤莊三、今村啓志、大藪和太郎、太田幹郎、甲斐一博、川口芳之、須山靖之、太田廣8名で開催しました。広島や岡山から遠来の友や久しぶりに参加者を迎え盛り上がった懇親会になりました。今後も出来るだけ機会を設けて、懇親会を開催しようとの思いでお開きになりました。

(太田廣記)



工機13期同期会

ここ数年、関西近住の方々とは京都祇園で舞妓(現在芸妓)さんと呼んで参集してきたが、今回は遠方の方々にも呼びかけて平成28年12月9日に同期会として開催した。12名の参加者の内、岡田氏と中尾氏がそれぞれ浜松と広島から駆けつけてくれ、古都の暮れの情緒を楽しむことができた。お茶屋での宴会後、喫茶店でさらに旧交を温めあったが、今回参加頂けなかった方々も、またいつの日か同期会でお会いできることを楽しみにしています。

(幹事:佐野・赤井・伊東)



【製造品目】 ●ステンレス(溶接管・条鋼・加工品) ●溶接鋼管(普通鋼) ●機械(パイプ切断機など)

MORY モリ工業株式会社

相談役(前社長) 森 明 信 (府大 機械 昭29卒)

本 社 大阪市中央区西心斎橋2丁目2番3号(EDGE心斎橋9階)
電話 (06)4708-1271(代表) <http://www.mory.co.jp/>
河内長野工場 河内長野市楠町東1615番地(南海高野線千代田駅前)
電話 (0721)54-1121(代表)

昭和41年卒業生の同窓会は平成14年に初めて開催され第13回目を迎えました。今回は卒業50年目の節目でもあり開催日を中百舌鳥キャンパスの白鷺祭に合わせ平成28年11月4、5日に行いました。谷川名誉幹事が不参加とのことで残念でしたが、12名の参加を頂き今年も大変楽しい集いとなりました。

当日はお昼に学生会館シュライクに集合し、屋台の焼きそばで昼食後、卒業生室の上田室長の案内でB4棟の中川先生の研究室を訪れ、電動立ち乗り二輪車(セグウェイ)の歩行者を感知して制御する研究テーマの説明を受けた後、振動研究室を見学し50年前と変わらない作業機や振動試験機を発見し50年前の学生時代を懐かしく思い出していました。

その後白鷺駅から第二の目的の高野山参詣に向かい午後3時半ごろ宿坊に入りました。高野山には117の寺院がありその内52が宿坊寺院となっています。壇上伽藍の中門の近くの宿坊遍照尊院に泊まりました。夕食までの時間紅葉が真っ盛りの蛇腹道や根本大堂をそれぞれに散策しました。大きな桧木風呂で身を清めた(?)あと夕食です。精進料理を楽しみながら般若湯(お酒)も進みそれぞれ近況を報告しながら親交を深めました。宿坊のため絞めとしての校歌は歌えませんが十分にお酒も楽しめたのが幸いでした。

翌朝は6時から底冷えのする本堂でのお勤め、法話を聞きそして四国霊場八十八ヶ所砂踏み参りの後、朝食を

頂くという非日常な体験をさせて頂きました。その後宿坊の紹介ガイドさんに奥の院を2時間、壇上伽藍を1時間かけて案内をして頂きました。御廟橋の橋石の裏に刻まれている仏の梵字が川面に映り込む極めてまれな機会にも恵まれ、また弘法大師に食事を届ける「生身供(しょうじんぐ)」の儀式も見学することもできました。3時ごろに高野山を下り難波で打上げをして来年の再会を確認し散会しました。

お世話になりました上田室長そして中川先生と研究室の皆さん大変ありがとうございました。

卒業生の皆様にもこの企画をお奨めします。白鷺祭と高野山の紅葉見ごろ時期が重なり、宿坊設備や食事も旅館と同じです。 幹事(北野勝広、安井邦夫)記



高野山奥の院にて
後列左より 梶田俊典、足立洋一、北野勝広、黒堀秀三郎、田坂友里、天見泰之、田島修、
前列左より 桐山富夫、安則高明、玉井貞明、辻敬二、安井邦夫、

各期理事の選出についてのお願い(重要)

機械工学科同窓会では、会員各位の卒業期ごとに1名の理事を選出していただき、この理事によって組織される理事会で同窓会の運営を行っております。しかしながら、年月を経ることによって、理事を欠いたままの期が多数あり、現在、専務理事がその期の代理を務めています。本会報15ページの2016(平成28)年度役員名簿の氏名欄に「専務理事に委任」と記載されている期がこれに該当します。ご高齢により理事を担当することが難しいために専務理事に委任されている期もありますが、多くは理事の移転による連絡先不明、または理事退任のあと後任が選出されないままの状態によるものです。

期の理事を欠いたままでは、理事会等で会員皆様の意見を正しく反映させることが困難です。そこで、理事が不在の期の会員各位におかれましては、できるだけ新たな理事を選出の上、同窓会事務局までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

特許・意匠・商標の出願・審判・訴訟・PCT出願

中谷特許事務所

弁理士 中谷 武嗣 (昭和42年卒)

〒530-0003 大阪市北区堂島1-6-20 堂島アバンザ6F

電話 大阪 (06) 6344-0177 FAX. (06) 6348-0927

URL <http://www.nakatani-pat.com>

叙勲・受賞ニュース

◇関大輝◇

2016年3月 日本機械学会三浦賞

◇吉村親樹◇

2016年3月 自動車技術会大学院研究奨励賞

◇片岡夏美◇

2016年3月 日本機械学会畠山賞

◇北原達也、合田瑛志◇

2016年3月 日本機械学会関西学生会貢献賞

◇若井星吾、山森岳、片岡夏美、谷口文彦◇

2016年3月 日本機械学会2015年度関西学生会学生員
卒業研究発表講演会Best Presentation Award

◇桑原拓也、吉田恵一郎、花本健一、佐藤和利、黒木智之、大久保雅章◇

2016年5月 日本オゾン協会論文賞

◇山本柱◇

2016年6月 日本セラミックス協会技術奨励賞

◇藤田真人◇

2016年6月 エネルギー・資源学会第4回学生発表賞

◇木下拓真◇

2016年6月 日本機械学会環境工学部門環境工学総合シンポジウム研究奨励表彰

◇莊保伸一、吉田篤正、木下進一◇

2016年7月 日本ヒートアイランド学会第11回全国大会ベストポスター賞

◇大久保雅章◇

2016年9月 国際電気集塵機学会 Dr. Senichi Masuda Award

◇吉田篤正、木下進一◇

2016年12月 タイ機械学会第7回機械工学国際会議最優秀論文賞 (Best Paper Award)

◇小川貴史◇

2016年12月 大気環境学会近畿支部研究発表会ベストプレゼン賞

◇吉田篤正◇

2017年2月 第3回工学と科学技術に関する国際会議最優秀発表賞
(Best Presenter Award)

2015年度 決算報告書 (自 2015年4月1日 至 2016年3月31日)

■収入の部			単位:円	■支出の部		単位:円
1.前年度繰越金		24,377,839		1.会費		22,840
2.会費収入		776,000		年会費二重払い		0
年会費 小計	253件	506,000		終身会費二重払い		0
今年度	188件	376,000		振込手数料		22,840
新入会員	63件	126,000		その他(会費返金含む)		0
その他年度	2件	4,000		2.運営費		453,192
終身会費 小計	9件	270,000		人件費		63,360
一般	8件	240,000		旅費・交通費		0
新入会員	1件	30,000		通信費		9,600
会費超過分など	0件	0		印刷・事務用品費		0
3.会報収入	2件	60,000		会議費		0
広告料	2件	60,000		Web名簿製作・運営費、業務委託費		380,232
雑収入	0件	0		3.会報発行費		1,000,432
4.参加費収入	14件	28,000		編集印刷費		726,400
総会懇親会	14件	28,000		発送費		273,600
その他	0件	0		雑費		432
5.利息収入		4,989		4.事業費		1,026,221
定期預金		4,459		理事会・懇親会諸費		49,015
普通預金		530		新入会員歓迎会諸費		202,936
6.雑収入	4件	433,593		理事交通費		50,000
工学同窓会同時開催 事業援助金	1件	176,593		特別事業費		0
工学同窓会HP拡充費	1件	30,000		特別事業・企画通信費		0
校友会支援金	1件	226,000		その他(ロボコン支援)		100,000
寄付(振込)	1件	1,000		その他(海外渡航費補助)		624,270
				5.雑支出		0
				慶弔費		0
				その他		0
				6.次年度繰越金		23,177,736
収入項目2～6の合計		1,302,582		支出項目1～5の合計		2,502,685
収入の部総計		25,680,421		支出の部総計		25,680,421

資 産 目 録 (2016年3月31日現在)

項 目	本年度	前年度
近畿大阪銀行普通	¥65,127	¥65,115
三井住友銀行普通	¥1,171,326	¥1,668,934
三菱東京UFJ銀行普通	¥119,434	¥117,290
郵便局	¥773,202	¥1,420,670
振込口座(会費)	0	0
振込口座(会報)	0	0
近畿大阪銀行定期	¥1,043,298	¥1,043,085
三井住友銀行定期	¥10,000,000	¥10,000,000
三菱東京UFJ銀行定期	¥10,000,000	¥10,000,000
現金	¥5,349	¥62,745
合 計	¥23,177,736	¥24,377,839

2015年度 会計監査報告

会計帳簿、証憑書類ならびに通帳を監査した結果、適正に執行されていたことを認めます。

2016年6月10日

会計監査 西川 嘉康 蒲生 恵司

機械工学科同窓会平成28年度役員名簿

期一卒業年	役職	氏名	期一卒業年	役職	氏名	期一卒業年	役職	氏名
大機1-S16		※委任	機機1-S22	常務	村山 乾一	工機28-S55	常務	武田 郁夫
大機2-S17		※委任	機機2-S23		※委任	工機29-S56		上野 登
大機3-S18		※委任	機機3-S24		※委任	工機30-S57	専務	菊田 久雄
大機4-S19	常務	塩田 治雄	機機4-S25		上田 正彦	工機31-S58		上田 隆美
大機Ⅱ4-S20		※委任	機機5-S26		矢木原邦雄	工機32-S59		石川 猶也
大機5-S20		※委任	機原1-S22	常務	岡崎 忠	工機33-S60		有園 祥一
大機Ⅱ5-S21		※委任	機原2-S23		※委任	工機34-S61		吉田 浩治
大機6-S22		※委任	機原3-S24		※委任	工機35-S62		田頭浩一郎
大機Ⅱ6-S22		※委任	機原4-S25		大野 虎夫	工機36-S63		山本 敏之
大機7-S23		細野 正守	機原5-S26		※委任	工機37-H1		河村 隆介
大機Ⅱ7-S23		粕井 寛	機精4-S25		※委任	工機38-H2		木村 哲也
大機8-S24		※委任	機精5-S26		香川 恭介	工機38-H2		吉満 信彦
大機9-S25		我谷 康之	工機1-S28		有田 幹雄	工機39-H3	監事	蒲生 恵司
大機10-S26		安部 吉謙	工機2-S29	名誉会長	青木 正昭	工機40-H4		佐藤亜理州
大精1-S16		※委任	工機3-S30		大野 茂夫	工機41-H5		小林 靖弘
大精2-S17		※委任	工機4-S31		※委任	工機42-H6	庶務	石原 正行
大精3-S18	常務	本田 宏	工機5-S32	名誉会長	上田 仁	工機42-H6		谷口 富洋
大精3-S18	顧問	藤原 啓	工機5-S32		中山 幸三	工機43-H7		松井 和昭
大精4-S19		※委任	工機6-S33	常務	三宅 栄一	工機44-H8		馬場 正信
大精5-S20		※委任	工機7-S34	名誉会長	橘 覚雄	工機45-H9	会計	水谷 彰夫
大精6-S22		※委任	工機8-S35	会計	太田 廣	工機45-H9		田中 清広
大精7-S23		※委任	工機9-S36		谷川十三夫	工機46-H10	庶務名簿	黒木 智之
大精8-S24		※委任	工機10-S37		豊田 正喜	工機46-H10		中村 泰浩
大精9-S25		※委任	工機11-S38	名誉会長	明石 博	工機47-H11		藤田 久士
大精10-S26		※委任	工機12-S39	会長	藤田 勝久	工機48-H12		森数 洋司
大原1-S16		※委任	工機12-S39	常務	北出 篤夫	工機49-H13		西海 博行
大原2-S17		※委任	工機13-S40	常務	赤井 富一	工機50-H14		船越 裕二
大原3-S18		※委任	工機13-S40		伊東 弘一	工機51-H15		牧野 允人
大原4-S19		※委任	工機14-S41		東野 耿二	工機52-H16		藤枝 英樹
大原5-S20		西村 寿光	工機15-S42		井上 久弘	工機53-H17		内田 陽介
大原6-S22		※委任	工機16-S43		石川 皓一	工機54-H18		田村 雄一
大原7-S23		※委任	工機17-S44		中馬 義孝	工機55-H19		佐野 浩司
大原8-S24		高木 規雄	工機18-S45		坂田 克郎	工機56-H20		松村 玲
大原9-S25		※委任	工機18-S45	名誉会長	西川 嘉康	工機57-H21		黒田 裕之
大原10-S26		柴沼 元	工機19-S46		杉元 民夫	工機58-H22		野田 友彬
大船6-S22		岩井 信親	工機19-S46	副会長	水谷 茂	工機59-H23		荒金 恵美
大船7-S23		森下 芳男	工機20-S47	常務	政友 公平	工機60-H24		中村 大輔
大船8-S24		※委任	工機21-S48		脇谷 俊一	工機61-H25		吉田 昂太
大船9-S25		田中 整	工機22-S49		伊藤誠太良	工機62-H26		光永 聖
淀機1-S22		安藤 久	工機23-S50		綾野 良孝	工機63-H27		小田宗治郎
淀機2-S23		※委任	工機24-S51		樋口 豊滝	工機64-H28		未定
淀機3-S24		玉尾 匡	工機25-S52	専務	大多尾義弘	大学院-S34		※委任
淀機4-S25		※委任	工機26-S53		河下 一成	大学院-S44		嶋橋 安廣
淀機5-S26		※委任	工機27-S54		古結 丈司	大学院-S56		石田 良平

機械工学科同窓会 会則

第一章 総 則

(名称)

第1条 本会は「大阪府立大学工学部機械工学科同窓会」と称する。

(目的) 本会は会員相互の親睦をはかり工業技術の発展に寄与することを目的とする。

(事業) 本会はその目的達成のため次の事業を行う。

第3条

- (1) 総会の開催。
- (2) 会員名簿および会報の発行。
- (3) 科学・技術とその情報の交換。
- (4) その他必要と認める事項。

(事務局)

第4条 本会は事務局を大阪府立大学工学部機械工学科内に置く。また理事会の承認を得て支部を置くことができる。

第二章 会 員

(会員の種類)

第5条 本会は下記の会員をもって組織する。

(1) 母体校友会

○官立大阪高等工業学校および官立大阪工業専門学校
機械科、精密機械科、原動機械科、船用機関科 卒業生。

○旧大阪府立淀川工業専門学校
機械科 卒業生。

○旧大阪府立機械工業専門学校
機械科、原動機械科、精密機械科 卒業生。

(2) 浪大会員

○浪速大学工学部

機械工学科 卒業生および大学院修了者。

(3) 府大会員

○大阪府立大学工学部

機械工学科 卒業生および大学院修了者。

(4) 教職員会員

○上記卒業生および修了者が所属する学科の現教職員
および旧教職員。

第三章 役 員

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

(1) 会長(1名)、副会長(若干名)、専務理事(2名)、庶務理事(若干名)、会計理事(若干名)、常務理事(若干名)、監事(若干名)。

(2) 理事 原則として各科、各期1名 大学院修了者若干名。

(3) 上記の外に学内理事(若干名)を置くことができる。

(役員の選出)

第7条 役員は以下の方法により選出する。

(1) 理事は各科各期の推薦による。

(2) 学内理事は大阪府立大学在職会員から上記理事の推薦による。

(3) 会長、副会長、専務理事、庶務理事、会計理事、常務理事は理事の互選による。

(4) 監事は理事会で推薦し、総会の承認を得なければならない。

(役員の任務)

第8条 役員の職責は次の通りとする。

(1) 会長は会務を統理し、この会を代表する。

(2) 副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時は会長の職務を代行する。

(3) 専務理事は会務処理を掌る。

(4) 庶務理事は専務理事を補佐し、名簿の整理、会報の発行等の諸事務処理を掌る。

(5) 会計理事は会計事務を掌る。

(6) 常務理事は会務を処理する。

(7) 理事は会務の企画立案をする。

(8) 監事は会計事務の監査を行い理事会および総会に報告する。

(役員の任期)

第9条 本会の役員の任期は2年とする。ただし改選期外の就任理事は次期改選期までとする。

第四章 特別会員

(特別会員)

第10条 本会に特別会員として名誉会長・相談役・顧問を置く。

(特別会員の推薦)

第11条 特別会員は以下の方法により選出する。

(1) 名誉会長には会長経験者、相談役には副会長経験者および専務理事経験者を推され、理事会の議を経て総会に報告する。

(2) 顧問は会員中より推され、理事会の議を経て総会に報告する。

第五章 集 会

(定時総会)

第12条 定時総会は2年に1回行う。

(臨時総会)

第13条 臨時総会は理事会の決議により、または全会員の5分の1以上の請求があったとき会長が招集する。

(総会の決議)

第14条 総会の決議は出席者の過半数により成立する。

(理事会)

第15条 理事会は会務の遂行上必要と認めたとき、会長が随時招集する。

(理事会の決議)

第16条 理事会は理事全員の4分の1以上により成立し、決議は出席者の過半数により成立する。

第六章 会 計

(経費)

第17条 本会の経費は、年会費、終身会費、寄付金およびその他の収入をもってあてる。

(会費)

第18条 会費の種類は年会費と終身会費とし、それぞれの額は必要に応じて理事会の議を経て別に定める。既納の会費は還付しない。

(会計年度)

第19条 本会の会計年度を4月1日より翌年3月末日までとし、毎年度毎に会計監査を受け、会計報告および監査報告を次年度中に、何らかの方法で全会員に公表しなければならない。

第七章 付 則

(会則の改正)

第20条 この会則は総会において出席人員の3分の2以上の同意を得て改正することができる。

(会則の発効)

第21条 この会則は、平成4年5月30日をもって効力を生じる。

編 則

(会費)

(1) 会費は下記に定める金額とする(昭和57年7月17日理事会)

年 会 費 2,000円

終身会費 30,000円

(2) 会費は教職員会員からは徴収しない。

海外派遣報告

私は2016年9月21日から23日にかけてイタリアのパレルモで行われた 11th International ERCOFTAC

Symposium on Engineering Turbulence Modelling and Measurementsに参加してきました。今回の海外渡航を通じて、経験したことをここにご報告いたします。

▶発表準備

今回の発表が、私にとって初めての国際学会での発表であったため、事前にしっかりと準備をしました。スライド作成では、英語の発音に自信のない部分でも理解してもらえるよう、アニメーションを用いて視覚的に情報を伝えたり、ポップアップを効果的に用いて自分の伝えたいことを強調できるように工夫したりしてスライドを作成しました。出発一週間前には、研究室内で発表練習を行い、スライドの修正を行いました。さらに、出発三日前には、大学で行われている海外での学会発表に向けた発表練習プログラムに参加しました。ネイティブの方に発表を聞いてもらい、マンツーマンで単語の正しい発音や発表時の注意点、効果的な英語の表現を教えてもらいました。その後も発表練習を繰り返し行い、本番に備えました。

▶学会での発表

私の発表は学会二日目の「Heat transfer」というセッションでの口頭発表でした。学会一日目は会場に足を運び、様子を見て次の日の発表に備えました。英語に自信のない私は受付をする際も少し不安なほどでした。何とか英語で受付を済ませた後は、他の人の発表を聞き次の日の発表に向けて準備をしていました。また、一日目は学会のレセプションパーティに参加しました。ここでは、他大学の学生や先生と交流することが出来ました。お互いの発表内容や研究内容について話したことで、今後の研究の参考になり得る情報を得ることが出来ました。

二日目はホテルで発表の練習をした後、会場に向かいました。上述したように、しっかりと準備を行っていたため、さほど緊張することなく発表に臨むことが出来ました。会場の様子を見ながらゆっくりと自分の伝えたいことを発表すること



受付

が出来ました。発表後の質疑応答の時間に一点質問を受けました。しかし、英語のスピードがとても速く、質問を聞き取ることが出来ませんでした。質問を聞き返したりしましたが、最終的には須賀教授に助けをもらうことになりました。発表については上手く行うことが出来ましたが、質疑応答で海外の方と十分に議論することが出来なかったのはとても残念でした。英語のスキルを磨き海外



バンケットの様子

の方と議論できるようになるということは、今後取り組んでいかなければならない課題だと感じました。また、この日の夜は、学会のバンケットに参加しました。英語で海外の方とコミュニケーションを取る機会もあり、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

学会最終日である三日目も、会場に足を運び他の人の発表を聞きました。乱流に関する最先端の研究発表を聞くことができ、非常に有意義でした。

▶関連研究

他の人の研究発表を聞き、研究内容や発表方法等に関して学ぶことが多くありました。「乱流モデルの適用範囲に関する研究」や「乱流による熱輸送のシミュレーション」など私の研究テーマと似たような研究も数多くありました。これらの発表は、自分の研究の立ち位置を再確認したり、今後の研究の道筋を考えたりする上で大変参考になりました。また、発表方法に関しても参考になることがありました。特に、抑揚をつけることで相手に最も伝えたい部分を強調するという部分が、私のプレゼンテーションには足りない部分であったため、今後活かしていきたいと思いました。

▶最後に

今回の海外渡航を通じて、海外渡航に関する基本的なスキルを身につけることが出来ました。また、英語によるディスカッションや、プレゼンテーションの抑揚等の課題も明確になりました。このような貴重な機会を与えてくださった須賀教授、金田准教授、機械工学科同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。今回の海外渡航を通じて得た経験や課題を今後の研究生活、エンジニアとしての活動にしっかりと活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。



講演の様子

今回2016年3月13日から17日にアメリカのハワイ島にて行われた国際学会The First Pacific Rim Thermal Engineering Conference (PRTEC2016)に参加し、研究成果の発表を行いました。事前準備では、海外での発表は今回が初めてということもあり、発表資料や原稿を入念に作りこみました。英語での発表の場合、自分の語学力であることから、日本語での発表に比べて言葉で相手に伝えることが難しくなるため、発表資料をよりわかりやすくするように工夫しました。

私の発表は学会初日の13日の最初のセッションでした。そのため他の発表者の方がどのレベルで発表されるかまだ見ていなかったのですが、自分の発表を精一杯行うことに集中できました。事前に何度も練習を行いましたが、本番ではやはり緊張してしまい、何度か言葉に詰まる場面がありました。そのため発表時間の15分を少し超過してしまいましたが、用意した内容は全て伝えることができました。発表後の質疑応答では、質問者の話す内容を完全に理解することができず、何度か聞き返してなんとかある程度の趣旨を理解することができました。質問に対する回答では、なかなか自分の伝えたいことは伝えられませんでした。質問者の方になんとか理解していただき無事発表を終えることができました。英語での質疑応答は思っていた以上に難しく、自身の語学力の未熟さを痛感しました。

他の大学の学生の発表で、質疑応答においてもしっかりと受け答えができていて語学力をもっと身につけようという刺激になりました。そして、多くの発表者のプレゼン発表を聞いて、ジェスチャーや抑揚をつけて



発表の様子

話すことでより相手に伝わりやすい発表ができることを学ぶことができました。

ウェルカムレセプションや昼食、バンケットなどを通して他大学の学生や先生方、外国人の方々とコミュニケーションをとることができました。しかし、外国人の方



バンケット会場

とのコミュニケーションは難しく、自身の語学力の無さを痛感し、語学力を向上させるモチベーションになりました。

今回の学会では発表が400近くあり、熱工学の様々な分野の発表を見ることができました。あまり知らない分野であることと英語での発表であることなどから、発表の内容を完全に理解することは難しかったですが、世界でどのような研究がおこなわれているのかなどを知ることができ、新たな知識を得ることができ、大変勉強になりました。

また、学会の休憩時間等を利用して周辺を散策し、日本では見られないようなきれいな海や夕日、星空などの自然と触れ合うことができ、素晴らしい経験をすることができました。

今回の海外渡航を通して、英語で会話できることの重要性を再確認できました。今後はより一層英語の勉強に励みたいと思います。今回の経験を活かして今後は世界にはばたける人材になれるよう努力したいと思います。

このような貴重な機会を与えていただきました須賀教授、金田准教授、機械工学科同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

この度、自分は6月5日から9日までイタリアのサレルノにて開催されたThe 11th International Congress on Thermal Stresses 2016 (TS2016)に参加させて頂きました。そこで貴重な経験をたくさん得ることができましたので報告させていただきます。



国際学会会場

本学会は熱応力をトピックとした学会であり、自分は“Nonlinear coupling between heat and moisture diffusion in one-dimensional cylindrical porous media in a transient state”というタイトルで発表いたしました。学会1日目は参加登録とwelcome dinnerで終わり、研究発表は2日目から5日目まで、朝から夕方にかけて行われました。なお、発表は2つ部屋に分かれて行われ、基本的に15分の発表と5分の質疑応答という構成でした。

今回の学会は英語での発表の経験がなかった自分にとって、英語の発表を聞き、英語で質疑応答のやり取りを行い、英語で発表するという貴重な経験を得られる場となりました。また、様々な研究者の研究発表を聞くことによって自分の拙い英語力では完全には分からないなりにいろいろな研究を知り、自らの視野を広げることもできました。また、学会でのランチやbanquetの時間にはインドの学生や韓国の教授などの様々な国や立場の人と英語でコミュニケーションを取りました。そこでは宗教や文化といったいろいろな考え方を知り、様々な教養的な知識も得ることができましたが、反面、自らの英語力の拙さを再

認識する場にもなりました。このことは自らの英語学習の良い励みになり、さらに諸外国の学生と触れ合うことで“負けてられないな”という勉学および生活面における素晴らしい励みとなりました。



サレルノ

また今回、海外渡航は自分にとって初めての経験だったので、今回の海外渡航は非常に有意義なものとなりました。最初は外国の治安や英語での会話などが不安でだいぶ構えていたのですが、今回行ったサレルノは優しく気さくな人が多く、また英語での会話も正しい文法が使えなくてもお互いが理解し合おうという気持ちがあればジェスチャーを交えつつ単語を駆使すれば相手に伝わるのが分かり、今回の渡航の最後のほうには自ら英語で話しかけられるようになっていました。この英会話の概念の変化は英語での会話は正しい文法で文章を作らないと伝わらないと思っていた自分にとって大きな収穫であり、今後、自らの世界観を広げる大きな一歩になりました。

また今回の滞在では様々な観光地にも訪れました。サレルノ周辺ではDuomoに行ってみたり、街を散策してみたりしました。



Duomo

他にも3ヶ所の世界遺産(アマルフィ、ポンペイ、カゼルタ宮殿)を訪れました。アマルフィへは船で行き、海からのアマルフィ海岸の景色を楽しみ、現地に着いてからは海岸の景色を楽しみつつ“天国の回廊”などを巡りました。帰りはバスでアマルフィ海岸沿いを走って帰りました。予想以上に景色が素晴らしく息を呑みました。



アマルフィの景色

ポンペイには電車で移動しました。こちらは眺めもさながら遺跡というだけあって雰囲気は独特でとても良かったです。日本が弥生時代のときにあそこまで設備が完備されていたと考えるとやはり世界は広いなど感心してしまいました。

カゼルタ宮殿は学会のExcursionで行きました。ここでも学会の参加者と写真を取り合い、コミュニケー

ションを図りました。また、ツアーガイドの方が英語で案内してくれたので英語を聞き取る練習にもなりました。

以上が国際学会の報告です。今回の渡航はたくさんの先生方のお力添えや友人の助言などにより非常に充実したものかつ有意義なものになったと思います。この学会および渡航で得たものの感じたものは今後の人



ポンペイ遺跡

生において活かしていきたいと考えています。

最後となりますが、この場をお借りして学会の資料作りおよび渡航に際して協力してくださったたくさんの方々にお礼を申し上げたいと思います。特に学会の資料作りや渡航に関しても多くの面倒を見てくださった石原正行准教授には深謝いたします。本当にありがとうございました。

◇ H28年物故者リスト ◇

(2017年1月25日現在)

※カッコ内は旧姓

大機S16 板倉 三郎(奥瀬)		大精S20 石川 正義(黒崎)	2015年08月18日	大原S25 金川 一	2015年07月
大機S17 浜田 幸博	2015年10月19日	大精S20 長谷川 五郎	2016年07月23日	大原S25 小海 途 享	2015年05月
大機S20 大森 悠久	2015年12月19日	大精S20 平田 民雄		大船S23 荒井 保之	
大機S23 栄木 数好		大精S20 箕島 仁八	2016年02月13日	淀機S23 大久保 尚義	2009年
大機S23 金子 博	2016年08月24日	大精S22 岡田 守康		淀機S25 木村 博	2015年01月28日
大機S23 喜多 敏夫	2016年10月12日	大精S22 曾根 輝明		機原S22 倉貫 好雄	2015年12月
機2S23 田原 義則		大精S25 小川 純生	2015年07月23日	機原S23 青井 信二	
大機S26 北村 和美		大原S17 角野 忠勝	2016年02月12日	工機S28 近藤 三郎	
大精S16 服部 卓二		大原S18 辰巳 平蔵		工機S32 新井 啓介	2015年10月
大精S17 武市 博	2015年10月04日	大原S20 山辻 保男(赤井)	2015年08月	工機S35 小野 敏郎	2015年6月29日
大精S19 清川 統生(純夫)	2016年08月	大原S20 木田 明	2016年04月01日	工機S35 三木 基義	2016年05月
大精S19 田中 龍雄	2015年11月	大原S20 鬼頭 俊一	2016年04月	工機S39 堀井 明夫	2016年07月
大精S19 田辺 一	2009年04月11日	大原S20 河野 悠	2016年01月	工機S43 寺谷 恵介	2015年11月13日
大精S19 中浜 英一	2013年05月15日	大原S20 大路 常次(杉本)	2016年04月	工機S49 太田 泰光	1998年10月29日
大精S19 今西 進(西田)	2009年11月21日	大原S20 露峰 良夫	2016年02月	工機H21 今中 祥晃	2015年08月
大精S19 水谷 定	2013年03月30日	大原S20 布施 肇		修機S34 東本 曉美	2015年10月18日
大精S19 吉川 忠親	2015年10月13日	大原S20 松尾 俊雄	2015年12月01日	修機S42 久保 速雄	
大精S20 青木 博	2015年11月04日	大原S23 井上 哲夫			
大精S20 奥田 繁延		大原S23 松川 靖	2016年08月14日		



海外派遣報告

工学研究科 機械系専攻 機械工学分野
機械設計工学研究グループ 博士前期課程1年 羅 成元

この度、私は10月14日から18日まで中国の上海にて開催されたThe 5th Asian Conference on Mechanics of Functional Materials and Structures (ACMFMS2016)に参加させて頂きました。国際会議にて経験したことをここにご報告させていただきます。



国際学会

本学会は固体力学をトピックとした学会であり、自分は“Exact Solution of Transient Thermal Stress Problem of a Multilayered Magneto Electro Thermoelastic Hollow Cylinder in the Generalized Plane Strain State”というタイトルで発表いたしました。学会は4日間開催されました。1日目は参加登録とwelcome dinnerで終わり、2日目から4日目にかけて研究発表が行われました。2日目および4日目は口頭発表が行われ、3日目にはポスターセッションが行われておりました。私は2日目の午後のセッションで発表させて頂きました。

英語を必須とする発表の場に居たことのない自分にとって、本学会は非常に貴重な経験となりました。発表の構成は15分の口頭発表と、5分の質疑応答となっておりましたが、英語の能力が拙い自分にとって15分間英語で話し続けることは想像以上に大変であり、事前の準備では教授に何度も文章構成やスライドのチェックやアドバイスを頂きました。質疑応答の際に質問内容を十分に理解できず、不完全な応答しかできなかったことが心残りではありますが、自分の発表を聞いて頂き、興味を持って質問して頂いたことは非常に嬉しく感じました。本会議はセミナーホールに加え、3つの部屋およびポスターセッション会場にて研究発表が行われており、自分も興味を持った発表を視聴させて頂きました。内容を完全に

理解することは出来ませんでしたが、様々な研究者の研究発表を聞くことによって自分の未だ知らない分野に触れ、自らの視野を広げることができました。また、休憩時間や昼夜の食事会、Banquetでは日本の他大学の学生や海外の学生と交流しました。現地の学生は活発的で英語能力も高く、接していて楽しいと感じるとともに自分の英語力をもっと鍛えねばと励みにもなりました。



発表の様子

会場のホテルまでは浦東国際空港からリニアモーターカー（上海リニア）と地下鉄を利用して移動しました。リニアモーターカーに搭乗したのは初めての経験で、時速300kmで景観が移り変わっていく様子に高揚感を覚えました。上海中心街は超高層ビルが建ち並び、東京以上に発展しているのではと感動した記憶があります。

3日目の午後には上海の観光ツアーが催され、上海環球金融中心（上海ワールドフィナンシャルセンター）の展望台へ行く機会を頂きました。当日は天候がやや優れなく、遠方まで見ることは難しかったですが、それでも尚超高層ビルからの眺めは圧巻なものでありました。夜間には外灘付近を散策し、その美しい夜景に息を飲みました。

上海博物館へも訪れました。博物館では陶磁器、彫刻、青銅器、書画をはじめとして、中国古代から唐、明、清に渡る多種多様な芸術品が展示されておりました。古代からの人々の技術力の高さ、趣向の美しさに感動し、中国の長年の歴史の変遷を肌で感じました。展示量が非常に多く全てを鑑賞することは出来ませんでしたが、機会があれば今一度訪れてみたいと感じます。



展望台からの景色(上)と夜景(下)



上海博物館

以上が私の渡航・学会発表報告の報告となります。英語を用いて発表、会話を行った経験は非常に刺激的で有意義なものでありました。この渡航で得たものは必ず今後の私の人生の糧となると信じております。最後となりますが、この場をお借りして学会の資料作りおよび渡航に際して協力してくださったたくさんの方々にお礼を申し上げたいと思います。特に学会の資料作りを監督してくださった大多尾義弘教授、渡航に関して多くの面倒を見てくださった石原正行准教授や学友達に深謝いたします。また、海外渡航費用を援助してくださった機械工学科同窓会の皆様にも深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

海外派遣報告

3月13日から17日にアメリカ(ハワイ)のWaikoloa Beach Marriott Resort & Spaで開催されました国際学会The First Pacific Rim Thermal Engineering Conference (PRTEC2016)に参加させて頂きましたので、国際会議や印象に残った体験についてご報告させていただきます。



国際会議

本学会は主に熱工学をトピックとした学会でした。まず1日目には、会議参加者の登録とWelcome partyがありました。研究発表は2日目から4日まで、毎日午前9時から午後18時まで休憩を挟みつつ開催されました。私は"Nonlinear Coupling Between Heat and Moisture Diffusion in Two-dimensional Porous Media in a Transient State"というタイトルで発表させて頂きました。15分間の発表に加えて、5分間の質疑応答がありました。英語での発表経験が無く、教授に何度も文章構成やスライドのチェックやアドバイスをさせて頂きました。しかし、質疑応答の際に質問内容の理解に時間がかかり、会話ができなかった事を後悔しております。これは発表前からの不安要素で、実際上手こなすことは出来ませんでした。自分の不十分な英語による発表を聞いて頂けた事、さらに興味を持って質問して頂けた事はとても良

い経験となりました。本会議は11もの部屋にて研究発表が行われるという形でしたので、興味のある研究内容を選んで参加させて頂きました。私の英語力が足らなかったため、研究内容をしっかり理解する事はできませんでしたが、どのような研究内容なのかを理解できるよう努力しました。

国際会議の休憩時間や昼夜の食事会、また Banquet (下写真) を通して、日本の他大学の学生や海外の学生と交流しました。主に日本語と英語でのやり取りで、他大学の学生と外国の方と英語で会話を行いました。



Banquetの様子

ハワイまでは関西国際空港からホノルル空港を経由して行きました。移動時間は約半日と、海外経験の少ない私には長く感じました。ハワイは日本からの観光客が多いため、日本語での案内が多いことに驚きました。ただ、英語での会話経験の乏しい私は、店員さんとの会話もままならないことが多かったため、苦労しました。コナ空港からホテルまではタクシーで移動しました。移動中の景色が日本とはまるで違う点、また、信号が極めて少ないという点が印象に残っております。

今回の学会で、アルバイトとして学会の手伝いを行いました。作業自体は非常に簡単なものだったのですが、座長の方と英語で会話するときに、なかなか上手く自分の意見を伝えることができず、非常に後悔しております。

空いた時間にはホテルの周りを走りました。そこで非常に印象的だったのは、どの時間に走っても地元の方とすれ違うこと、また、その方々は必ずと言っていいほど挨拶をしてくれることです。非常にいい気分で行くことができよかったです。

また、帰国の前日には、マウナケア山に登るツアーにも参加しました。4200mという非常に高い山で、不安もありましたが、ガイドの方がとても親切で、ハワイの自然を感じることができました。また、すばる望遠鏡を近くで見ることができ、とてもよかったです。



すばる望遠鏡



マウナケア山

今回の国際会議を通して、英語力の強化に対して強く刺激を受けました。研究発表についてはもちろんですが、その他ツアーの予約や、ホテルやレストランにおける会話の際、先生方に頼ってしまう場面も多々ありました。その経験から日常会話は想像以上に難しく、生活する上で必須となる事を実感できました。以上が私の渡航・学会発表報告となります。様々な分野について研究発表を聞いた事、英語をメインとした生活の体験、ハワイの文化の体感など大変貴重な体験をさせて頂きました。また、次回海外へ行く際はスムーズに会話をできるようになりたいという目標もできました。本研究室の大多尾教授、石原准教授にはこのような大変貴重な機会を設けて頂き大変感謝しております。また、海外渡航費用を援助して下さった機械工学科同窓会の皆様にも大変感謝しております。この経験を今後の研究生生活、社会人としての生活に役立てたく思います。ありがとうございました。

大阪府立大学

ロボットコンテスト サークル

平成27年度活動報告

工学域 電気電子系学類 電気電子システム工学課程4年

ロボットコンテストサークル平成27年度代表 幸田 嵩裕



以下、特に断りのない限り、学年や所属は平成27年度のものを用いることとします。

1. 代表者及び在籍者

(1)代表

・幸田 嵩裕(工学域 電気電子系学類 電気電子システム工学課程3年)

(2)副代表・書記・Web担当

・亀井 啓史(工学域 機械系学類 機械工学課程3年)

(3)会計

・河田 将志(工学域 機械系学類 機械工学課程3年)

(4)他のメンバー

・西村 大輝(工学域 電気電子系学類 電気電子システム工学課程2年)

・松本 拓治(工学域 機械系学類1年)

・光成 茉弥(同上)

・宮澤 佳奈(同上)

・百生 拓人(同上)

・松本 翔太(工学域 電気電子系学類1年)

・四谷 祥太郎(同上)

以上10名

2. 活動概略

年間スケジュール

4月

・新入生の勧誘活動

・第22回かわさきロボット競技大会の機体製作(設計)

5月～8月

・かわさきロボット競技大会の機体製作(設計・加工)

・勉強会

9月～10月

・第66回白鷺祭の屋内企画出展準備(展示品の製作)

・第18回ロボットグランプリ ロボットランサー競技会の機体製作

(プログラムの理解・勉強)

11月～1月

・ロボットランサー競技会の機体製作(回路の設計・製作)

・NHK学生ロボコン2017に向けての基礎技術の勉強

2月～3月

・ロボットランサー競技会の機体製作(試走・修正)

・NHK学生ロボコン2017に向けての基礎技術の勉強

活動の概観

競技会などに向けた活動の詳細については後述しますが、ここでは平成27年度の活動全体を省み、改善すべき点などをまとめます。

(1)主要な活動

平成27年度は、次に挙げる3項目への参加を活動の柱としました。

・第21回かわさきロボット競技大会

・第18回ロボットグランプリ ロボットランサー競技会

・新入生に向けた勉強会

(2)活動全体に関する反省点

・1、2年生の活動と3年生の活動と一緒にすることが少なかった。

1、2年生は主に来年以降の大会に向けて技術をつけることに力を注ぎ、3年生が今年度の大会に向けての機体製作を行っていました。そのため、同じ活動をするのが少なく、1、2年生は3年生との交流をする機会が少なく、サークル全体としての一体感が持ちづかったという点がありました。

・大会において、好成績を残すことができなかった。

機体を完成させたものの、当日動かすことができないことや誤動作を起こしてしまうことがありました。スケジュールの甘さや技術不足の面で競技に向けた製作に遅れが生じ、完成後、修正する期間を十分にとることができなかったことが原因だと思われます。

(3)新年度(平成28年度)の活動に向けた改善の方策

上記の問題を新年度の活動において解決するため、次の対策が考えられます。

・1、2年生と3年生がともに同じ大会に向けて活動する。

今年度は1、2年生の勉強会に多く時間を注いだため、大会に向けての機体製作は3年生が行うことになりました。ですが、大会に向けて活動することで学べることも多くあり、1、2年生の間にも大会に出てもらうことは必要となってくると思います。全員が集まれる時間がなくても同じ大会を目指すことで、チームとしての一体感を持てるようにすることも必要かと思えます。

・スケジュール管理の体制をさらに整える

いくら詳細なスケジュールを立てても予期せぬ事態は起こります。そのため、予期せぬ事態を想定して余裕を持ったスケジュールを作ることは当然のことだと思います。ですが、それでも期限までに機体に目標の動作を

させることができない場合は知識のある人に尋ねることや、比較的時間がとれる人に依頼する等メンバーに頼る必要性も感じられました。そのためにもどの期間に誰が余裕を持っているかを皆が把握することが必要だと感じます。また、毎回の活動でその日の目標を宣言することで、より危機感を持って活動を行うことも必要かと思えます。

3.活動詳細

第21回かわさきロボット競技大会

(共催:川崎市、公益財団法人川崎市産業振興財団)バトルロボット部門

●基本事項

・日程…実機審査:2015年8月21日、予選:8月22日、決勝:8月23日

・参加機体…1機参加、機体名:ミノス改2

・参加結果…実機審査不合格

・競技内容…規定のリング上で2台のロボットが格闘し、相手機体を押し出すか、転覆させ走行不能にすれば勝利となります。ロボットは、リンク機構により往復運動を行う脚と腕を持たなければなりません。

●製作および競技参加の詳細

(1)製作の進行状況

今回は、機体の製作全てを3年生3人で担当して製作を進めていきました。当初の計画では、(1)腕構造と脚構造は5月下旬に行い、(2)その後は可能な部品から順次加工に移行し、前期試験前の7月上旬には全ての部品の加工および組み立てを終了、(3)8月上旬から機体の動作確認と不具合の修正を行う予定でした。

実際に製作を進行させた状況を表1に示します。機体に使う材料のほとんどをアルミで行ったため、当初の計画よりも加工に時間をかけてしまいました。そのため、動作確認をほとんど行うことができませんでした。加工後、脚がスムーズに動かないことが分かりました。原因を考え、何度も修正を加えたものの、実機審査会で動かすことができませんでした。

表1 かわさきロボット競技大会に向けた機体製作の進行状況

期間	進行状況
5/10~7/16	構造の検討と詳細設計
~8/18	加工依頼
~8/21	組み立て

(2)競技参加時の状況

今回エントリー書類の不備により、予選前日に実機審査を受けることになりました。実機審査は、機体が競技規則に適合するか、またリングを走破し相手を攻撃する能力を持つかが審査されます。

審査を受けた結果、脚の構造上の問題で進行させることができず、不合格となってしまいました。

(3)機体について

設計中の機体の3DCAD画像とそれを実際に組み立

てた写真をそれぞれ図1、図2に示します。また、脚と腕の機構は次の通りです。

・脚機構:てこクランク機構、クランクの位相ずれ120度を3組で1脚、計4脚、タミヤギヤードモーター380K36 (1[個/脚]、計4個使用)・腕機構:スライダー・クランク機構、タミヤギヤードモーター380K75 (2個使用)



図1 第22回かわさきロボット競技大会に向けて設計時の機体構造



図2 第21回かわさきロボット競技大会 審査に提出した機体

●反省点

今回の製作を通じて多くの反省点が明らかになりましたが、そのうち主要なものを取り上げます。

(1)製作日程に関する反省点

製作日程について、その大幅な遅れは様々な面で悪影響を及ぼしました。それに関する反省点は、主に次の通り挙げられます。

・製作計画の開始時期が遅く、当初より余裕があまりない日程を組むことになった。

・スケジュール遵守に対する意識が徹底されていなかった。

(2)機体の構造に関する反省点

機体の構造に関する反省点は次の通りであり、いずれも初歩的な設計ミスといえるものです。

・構造上またはがたつきにより脚のリンクが正常に動作しなかった。

・本体に脚を接合させる場所を作っていないかった。

・腕の固定が十分にされていないかった。

●改善策

上記の反省点を改善するために、次の対策が考えられます。

(1)製作の日程の遅延に対する改善策

・経験の浅いメンバーは、単純な構造を理解し設計に慣れる段階を経るように工夫する。また難しいパートには指導役を割り当てる。

・定期的にミーティングを開いて進行状況を確認する。

・活動の始めにその日の目標を宣言して始めるようにする。

(2)機体の構造に関する改善策

・3D CADの質量計算機能、干渉チェック機能を十分に活用する。またそのための時間を確保する。

・破損した箇所の情報を蓄積し、今後の設計時に注意する。

・設計時に、組み立ての方法を十分に念頭に置く。



図3 白鷺祭展示用射撃ロボット

第68回白鷺祭 屋内企画出展

●基本事項

(1)日程・・・2015年11月4日～11月6日

(2)出展内容・・・小学校低学年の子供も扱える簡単な手動操縦ロボットの操縦体験、および活動紹介

●製作および出展の詳細

(1)製作の進行状況

展示品について、来客のうち小学校低学年程度の子供が多いこと、1回生が製作をする経験してもらうことから以下のロボットの製作を行いました。

・射撃ロボット(図3)

的の色を感知して、銃口が自動で的の方向を向くロボット

・全力でスイッチをONにするとOFFにするロボット(図4)

ニコニコ動画の「全力でスイッチをONにするとOFFにするロボット」を参考にしたもの。以下、全力OFFロボと記す。

・4足歩行ロボット(図5)

関節を持つ足を4つ持つロボット。動物のような歩き方をする。

・ロボットアーム(図6)

複数の関節を持つ。パソコンでの操作により、ものをつかんで持ち上げることができる。

展示品の製作は、基本的に1年生のメンバーが前期の勉強会で学んだ内容をもとに行いました。実際に製作を進行させた状況を表2に示します。

表2 白鷺祭に向けた展示品製作の進行状況

日程	射撃ロボット	全力OFFロボ	4足歩行ロボット	ロボットアーム
9/11～18	展示物の検討、役割分担	展示物の検討、役割分担	展示物の検討、役割分担	展示物の検討、役割分担
～10/12	プログラム、回路作成	プログラム、回路作成	プログラム、回路作成	構造の設計
～10/26	改善、修正		改善、修正	機体の加工、プログラム、回路作成
～出展		改善、修正		改善、修正



図4 白鷺祭展示用全力OFFロボ

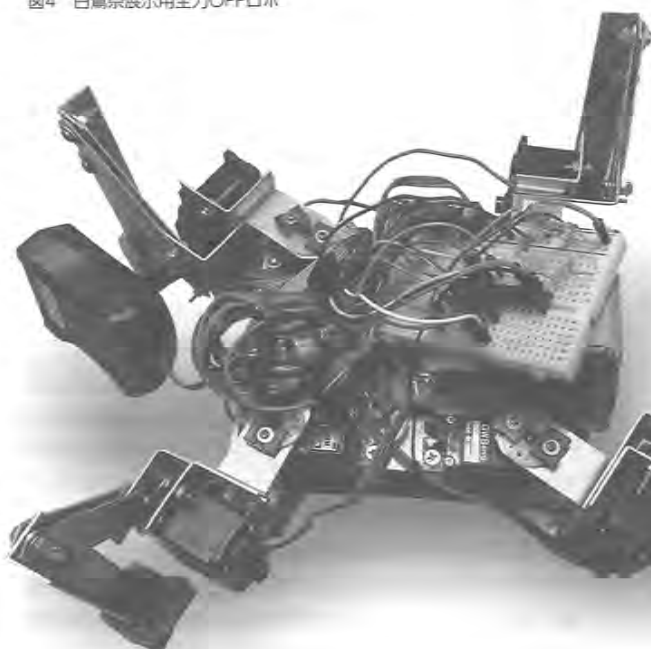


図5 白鷺祭展示用4足歩行ロボット



図6 白鷺祭展示用ロボットアーム

(2)出展の状況

展示物は、上記の新規製作品に加えて、過去の製作物(タミヤ製の工作キットなど)等、計10種類以上ものロボットにも触れて遊んでもらえるようにしました。展示に際して事故などの異常事態は発生せず、無事に3日間の展示を終えました。

来場者数について、正確な記録はありませんが、各日数十人単位の来場がありました。その多くを占めた子供たちは、楽しんで上記のロボットに触れていたように見受けられました。中には、実際に家でもロボットを製作してみたいという人もおり、ロボット製作に対する関心も持ってもらえたと感じています。

●反省と改善策

(1)反省点

・上記のロボットの玩具について、駆動部などが故障して動かなくなることが多かった。

・コードが絡まることが多く、何度もほどこが必要があった。

・役割分担が上手く出来ず、負担がかかってしまう人がいた。

・初めのうちは順調に進んだため、油断してしまい、完成が出展直前になってしまった。

(2)改善策

・子供が扱うことを想定するときは、より信頼性のある構造を用い、また事前に展示物の整備を十分に行う必要があります。駆動部への巻き込みや部品の脱落などによる事故が起こらないよう、設計から運用の各段階において、引き続き最大限の注意を払うべきです。その上で、電池

の消耗やコントローラーの故障を想定して代わりとなるものを事前に準備しておく必要があると感じます。

・有線のコントローラーだけでなく、無線のコントローラーで操作するロボットや自立動作を行うロボットも導入し、コードが絡まる心配をなくすことも一つの案だと思います。

・最初に皆活動できる時期を把握し、少なくとも活動できると伝えた時期には責任を持って行うようにすると上手く役割分担できたかと思えます。

・いくら順調に進んでいたとしても何が起こるか分からないため、スケジュールを遵守する意識を忘れずに、余裕を持って活動していくことを忘れないようにすることが必要だと思います。

第19回ロボットグランプリ ロボットランサー競技(スタンダードクラス)

●基本事項

・日程・・・試走会:2016年3月26日、本走行:3月27日

・参加機体・・・1機参加、機体名:白鷺β改

・参加結果・・・全61チーム中6位。(ただし、上位25チームが決勝トーナメントへ進む。)

・競技内容・・・長円形を描く白線の周囲に大きさや向きの異なる的が複数設置され、周回する自律ロボット(基本的にライントレーサ)に搭載した槍で、制限時間内にそれらを突くことによる得点を競うものです。通常はスタンダードクラスに、過去大会上位入賞者はより難度の高いコース設定であるマイスタークラスにエントリーします。

●製作および競技参加の詳細

(1)製作の進行状況

ロボットランサー機の製作は、昨年度の機体にプログラムを実装し、走行させる試走を繰り返し、改良を加えることとしました。

実際の製作のおおまかな進行状況を表3に示します。昨年度の機体に新たな回路を導入し、プログラムを実装したものの、うまく動作せず、原因を突き止めては動かしきといた繰り返しでした。

大会直前までプログラムを少し変えては試走させることを繰り返し、大会前日には何度か期待通りに走行させることができました。ですが、本番では本来の力を発揮することができず、途中でコースを外れてしまいました。

表3 ロボットランサー競技会に向けた機体製作の進行状況

日程	進行状況
～11/8頃	ブレッドボードでの動作試験、プログラムの精査
～1/7頃	回路作成
～大会	動作確認、試走、改善

(2)機体について

製作した機体の写真を図7に示します。

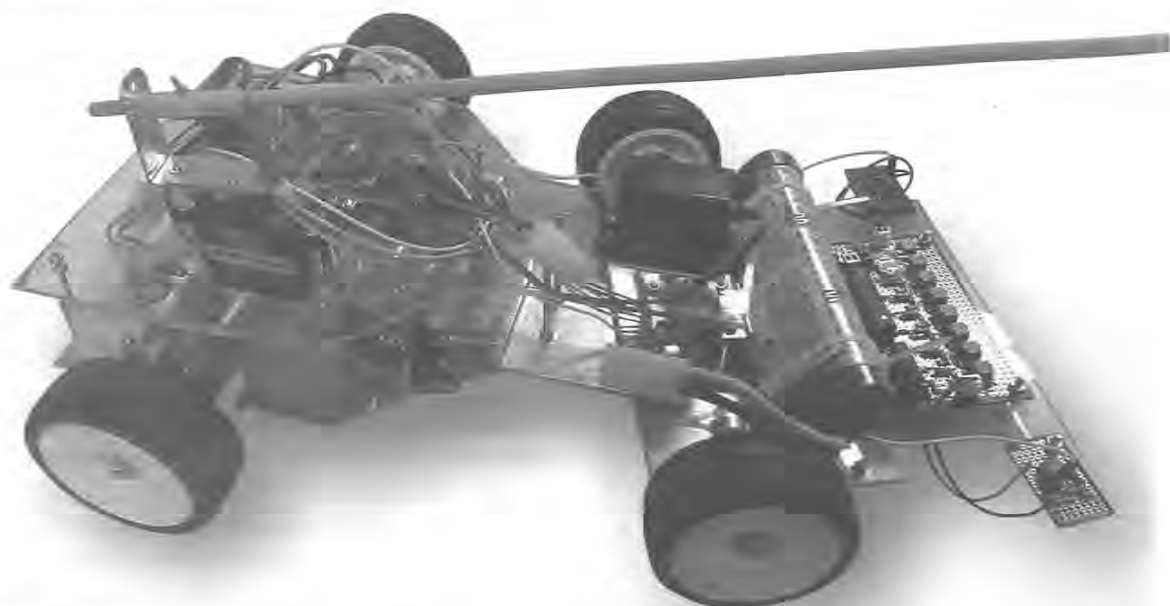


図7 ロボットランサー競技(2016年)に向け製作した機体

また、機体の主要な構成は次の通りです。

- ・コースラインセンサ、モータドライバ(槍用サーボモータの操作含む)はそれぞれ独立にマイコンを搭載し、それらを統括する主制御マイコンとはI2C通信によって値をやり取りする。
- ・ステアリング:回転型(ステアリングサーボモータに直結)
- ・足回り駆動:マブチモータRS380-PH 1段減速

●反省点

今回の製作を通じて多くの反省点が明らかになりましたが、そのうち主要なものを取り上げます。

(1)製作日程に関する反省点

製作日程について、その大幅な遅れは様々な面で悪影響を及ぼしました。それに関する反省点は、主に次の通り挙げられます。

- ・スケジュールの意識が徹底されていなかった。

(2)機体の構造、プログラミングに関する反省点

機体の構造に関する反省点は次の通りであり、いずれも初歩的な設計ミスといえるものです。

- ・機体の後方に重心が偏ってしまったため、ステアリングが機能しなかった。
- ・PIDの適切な値を決めることができなかった。

●改善策

上記の反省点を改善するために、次の対策が考えられます。

(1)製作の日程の遅延に対する改善策

- ・定期的にミーティングを開いて進行状況を確認する。
- ・活動の始めにその日の目標を宣言して始めるようにする。

(2)機体の構造に関する反省点

- ・3D CADの質量計算機能、干渉チェック機能を十分に活用する。またそのための時間を確保する。
- ・破損した箇所の情報を蓄積し、今後の設計時に注意する。
- ・新たに機体を作製するときは試走、修正の期間を3か月は取るようにする。

4. 会計報告

平成27年度予算の収支報告を以下に記します。友好祭で出店した際の利益を活動費に使ったため、友好祭での出店についても収支報告に加えました。

平成27年度収支報告 (単位:円)

収入の部		支出の部	
平成27年度同窓会支援金	100,000	川崎 ロボット 競技会	機体材料費 28,732
			参加費 8,216
			小計 36,948
友好祭模擬店	74,050	ロボット ランサー 競技会	電子部品 3,574
前年度繰り越し	5,934		小計 3,574
計	179,984	NHK ロボコン (次年度に 向けての 活動)	機体構造材料・部品 48,160
			資材、消耗品 6,678
			小計 54,838
		友好祭	レンタル機器・食材費 48,376
		その他	白鷺祭展示品 制作費・勉強会 7,307
			工具 4,652
			資材、消耗品 18,052
			小計 30,011
		合計 173,747	
		次年度への繰り越し 6,237	

東本暁美元会長がご逝去されました。

平成22年度から23年度まで同窓会会長を務められた東本暁美(大学院-S34)様が、

平成27年10月18日にご逝去されました。

東本様は、企業人として新日本工機(株)で勤められた後、

近畿大学教授として教育・研究に携わってこられ、

工作機械の高精度化や自動化などで優れた業績を残しておられます。

ご退職後は、体調が思わしくないのをおして機械工学科同窓会のために会長職も務められました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。



～追悼～久保速雄先生(工機13-S40)

菊田久雄(工機30-S57)

久保速雄先生が2016年11月26日に亡なられました。77歳でした。皆様もご存じのように、久保先生は一風変わった先生でした。経歴においても、商業高校を卒業された後、銀行勤めを経て、また勉強をして大阪府立大学に入学されています。卒業後に教員として勤務され、計測工学の授業を担当されていました。研究は、今では珍しくなってしまった光弾性について取り組まれています。有限要素法などのコンピュータによる数値解析が発達した現在では光弾性を使って応力場を調べることはなくなりましたが、光部品の複屈折計測技術としては今でも有用です。とくに、久保先生が取り組まれていた3次元光弾性の問題は複屈折光CTの難問でもあり、現在でも解決されるには至っていません。同窓会では、専務理事として機械工学科50周年記念「大阪府立大学外史」の発行にご尽力を頂きました。

ところで、若い頃はタバコを吸っていた先生が、身体を壊したことで、以降は健康に「非常に」気を使われていたことは、卒業生の皆さんもよくご存じのところだと思います。一方、私にとっては久

保先生の学生指導が忘れられません。留年を重ねる学生を呼び出して話を聞き、親御さんにまで電話かけるなど、大学に入って勉強につまずいた学生の進路を真剣に心配されていました。まだ若かった当時の私には、「大学に来ない学生をなぜ無理に呼び出すのか?」と思って理解できませんでした。しかし、今になって私も久保先生と同じことをやっています。私だけでなく、すべての教員がやっています。時代を先取りしておられたのかも知れません。ただし、仕事でやっている私と、人の優しさでやっておられた久保先生とは、今でも大きな差があります。

2003年3月に定年退職された後は、好きな大工仕事、庭仕事、魚釣りなどを楽しんでおられたようですが、お身体を壊されてからはご不自由な生活だったとお聞きしています。学生達と魚釣りに行き、夕方になって帰ろうというのに、「まだ餌が残ってるねん。もう少し待ってて。」と言っておられた久保先生の優しい姿が今でも目に浮かびます。心よりご冥福をお祈りいたします。

同窓会会費納入のお願い

会長 藤田勝久

日頃より、機械工学同窓会活動にご支援戴き、有り難うございます。この度、会費納入について連絡させていただきます。

我々の同窓会活動は、長年、年1回の会報発行や同窓生の名簿管理だけを中心に続けてきました。この間、無駄な支出を行わない努力のもと、約10年前にはある程度まとまった年度繰越金を持つに至りました。このときの理事会において、

1. 任意団体である単位同窓会が、具体的な使用目的を持たないまま多額の年度繰越金を持つのは好ましくない。

2. 多額の繰越金は会員へのサービスを十分に行っていないことに繋がる。

などの意見が出て、同窓会活動を少し拡大することで会員へのサービスを向上させながら適正な財務規模に推移させることが決まりました。

具体的には、新たに同窓会のホームページを開設したり、総会時に講演会を開催したりするとともに、現役の学生に対する支援も積極的に行うようになりました。従来から続いている学業優秀賞受賞者への副賞提供のほか、機械の学生が中心になって活動しているロボコンクラブへの補助、外部資金の利用が難しい大学院生の海外発表のための旅費補助などを行っています。また、2016年度からは同窓生交流のために情報交流サロン会を立ち上げました。

一方、財務面では、毎年の支出が収入を上回るようになり、繰越金は減少傾向を強めています。収支の大まかな内訳は、1年間の会費収入が約150万円、支出が約250万円になっています。現在の年度繰越金にはまだ余裕がありますが、このままの状況が続くと十数年後には同窓会活動を続けていくことが難しくなります。

収支をバランスさせるには、もっとも簡単な方策として活動内容を会報発行と名簿管理だけの以前の活動に戻すことですが、できれば活動規模を縮小せずに収支をバランスさせたいと願っています。財務状況の推移を調べたところ、支出増加だけでなく、会費収入の減少も影響していることがわかりました。

【会費の納入のお願い】

つきましては、会費を納入していただいていない会員の皆様に会費の納入をお願いしたいと思います。同窓会では、毎年の会報発行は卒業生の絆と考え、会費の納入にかかわらず所在のわかる全会員に会報を送らせて頂いています。また、上述のように同窓会活動は現役学生への支援活動でもあります。今後とも、卒業生の絆を保ち、現役学生への支援を継続させるために、あらためて会費納入をお願いしたいと思います。

多くの方が、日々の忙しい仕事や生活で学生時代を思い返す機会もなく、会費納入を忘れていたり、卒業以来一度も会費を納める機会がなかったりしている方もおられると思います。毎年の会費納入でなくても、気が付いたときだけでもお納め頂ければ、充実した同窓会活動を継続することができます。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、毎年、欠かさずに会費を納入いただいている会員の方々には、この紙面をお借りしてあらためて厚く御礼申し上げます。

(記 専務理事 大多尾、菊田)

α x Honnda 製造品目

電機部品・原子力部品・電子機器部品・金属プレス加工
精密金型制作・カーエレクトロニクス部品・製造

本田金属工業株式会社

取締役会長 本田 宏 (大工精密 3期)

〒594-0074 和泉市小田町1-1-35

電話 0725-40-3655 FAX.0725-40-3656

URL <http://www.hondakinzoku.com>

会員限定 マイページについて

●最新の会員名簿が閲覧できます。(公開している方のみ)

●住所登録情報の確認や更新ができます。

会員様からお預かりしている個人情報を、よりセキュリティの高い環境に一元管理しております。

マイページへのログイン

●宛名用紙にIDおよびパスワードが記載されています。

●IDとパスワード管理は充分にご注意ください。

●IDパスワードが分からない場合または紛失された場合は、下記のお問合せ先まで御連絡ください。



個人情報変更ページ

●ご住所変更の際は、こちらから変更をお願いします。

自宅住所や電話番号、勤務先の情報の
公開範囲を指定してください。

会員の皆様へのお願い

新しいホームページをより一層活性化するために、より多くの情報を迅速にお伝えし、会員の皆様に幅広く利用していただけるようにしていきたいと考えております。

クラス会の開催告知から報告や、さまざまな活動報告の場にしていきたいと考えております。そのためには、幅広く情報提供をお願いいたします。(内容により掲載できない場合はご容赦ください。)

その他の機能 ●IDパスワードの変更 ●入金状況の確認 ●近況報告機能

お問い合わせ先

大阪府立大学 工学部 機械工学科同窓会ホームページ 管理・運営サポート
E-mail:osaka-eng@web-dousoukai.com

有限会社プリンティングサービス

538-0043 大阪市鶴見区今津南2-7-6 TEL.06-6969-8111 FAX.06-6969-8112

http://www.printing-s.jp/ 営業時間:9:00~17:45(月~土)



発行所

大阪府立大学工学部 機械工学科同窓会

事務局：〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学 工学部 機械工学科 内

印刷所

(有)プリンティングサービス

■ 機械工学科同窓会事務局からの依頼事項

会員の異動等に関する同窓会事務局への連絡については、下記までお問合せください。

大阪府立大学 工学部 機械工学科同窓会運営サポート E-mail: osaka-eng@web-dousoukai.com

有限会社プリンティングサービス

〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2-7-6 TEL.06-6969-8111 FAX.06-6969-8112 <http://www.printing-s.jp/>

営業時間／9：00～17：45（月～土）